

【議長賞】給食は魔法？

高棚小学校

市原 詩空

「お母さん、今日はなにをしたの。」

「今日は白菜を使ったよ。」

「お母さん、今日はなにをしたの。」

「今日はカレーを煮てたよ。」

これが母との毎日の会話です。
私の母は、私が三年生のときから給食センターで働いています。働き始めのころは毎日どんなことをしているかいつも聞いていました。話を聞くと、給食を作りに行っているのに全く調理をしない日があることを知り興味がわきました。そしてどんな仕事があるかとても知りたくなり、母に聞いてみることにしました。朝届いた野菜を分ける人、野菜を洗っている人、野菜を切る人、煮たおかずを食かんに分ける人、そしてそれを学校に運ぶためのコンテナに運ぶ人など私が考えているよりたくさん仕事があるんだなど、おどろきました。野菜は葉っぱを一枚ずつはがして三回も洗うと聞いて大変だと思いましたが。でも、調理員さんは、ゴミがついていないか、虫がついていないか、傷んでいないか気にしながら丁寧に洗っているんだよと聞きました。給食を作るときはみんなが美味しくたくさん食べてくれるといいな、残さず食べてほしいなと思いがから作っているんだよと母が言っていました。私達が毎日食べている給食はたくさん人の手が加わりたくさんの人の気持ちが入っているんだと思ったり、苦手な物も食べなきゃと思いました。

給食を食べているとき、クラスの皆がにこにこしておかたりしたり、お汁足りないよーと言っているのを聞くと私もうれしくなります。それを母にも話すと母も笑顔になります。給食ってすごいんだなと思いました。

その給食メニューで人気なのはビビンバとカレーです。そんな人気の給食を作ってみたいと思いました。作ったメニューはビビンバです。材料を準備、調味料を量り、さっそく調理開始。私一人で頑張って野菜を切ったりして作りました。家族分でも時間がかかったのに給食センターでは九千食も作っていると知り、あまりの数の多さにとってもおどろきました。作ったビビンバは家族みんな「美味しー」と言ってくれて、全部なくなりました。一生懸命作ったのでとてもうれしかったです。

母は、「食かんやバットが空になって給食センターに戻ってくるのを見るとうれしーなんだよ！美味しかったというみんなからのサインなんだよ」と言っていたのを思い出しました。だから毎日残さず食べるのが給食センターで働く人への恩返しなのではないかと思えました。

「いただきます。」や「ごちそうさまでした。」という言葉を感謝の気持ちで忘れずに言うことも大切なんだと思いました。

毎日当たり前に食べていた給食は皆を笑顔にする魔法の食べ物なんだと思いました。